

第68回大分県畜産共進会 審査報告書

社団法人 大分県畜産協会

審査講評

1 肉牛の部（平成19年10月6日）

第68回大分県畜産共進会、肉牛の部が皆様のご協力により無事終了し、ここに審査の結果をご報告できますことを、審査委員を代表して心からお礼を申し上げます。

今回の出品頭数は、黒毛和種去勢牛40頭、交雑種去勢牛10頭の計50頭でありました。

枝肉の審査につきましては、（社）日本食肉格付協会の牛枝肉取引規格を基準とした冷屠体審査で行いました。

まず、黒毛和種去勢牛であります。出品牛の月齢は22ヶ月～30ヶ月で、平均28.2ヶ月と昨年とほぼ同様でした。種雄牛別では寿恵福21頭(52.5%)、藤平茂6頭(15.0%)、その他となっております。

屠殺前体重は最高848Kg、最低640Kg、平均735.7Kg、枝肉重量では最大555.8Kg、最小419.9Kgで平均483.6Kgと昨年と比較し枝肉重量で6.1Kg増加いたしました。

次に枝肉の格付け状況ですが、歩留等級につきましては、A等級29頭(72.5%)、B等級11頭(27.5%)でした。肉質等級では、5等級12頭(30.0%)、4等級15頭(37.5%)、3等級以下13頭(32.5%)で4・5率は【67.5】%で、昨年と比較して歩留等級はやや向上し、肉質等級は同等でありました。

また、肉質につきましては、脂肪交雑(BMS No)が、3～10で、平均6.0、ロース芯面積は最大67cm²、最小44cm²、平均54.5cm²で、皮下脂肪の厚さは、最大5.7cm、最小1.8cm、平均3.2cmでありました。

これらの成績は、前年と比べBMS Noは0.1高く、ロース芯面積0.3平方cm大きく、皮下脂肪厚は0.2cm厚くなりました。

今回は、前回に比べ4・5率は同等でありましたが、5率の割合が向上したものの、A等級の割合が全国平均と比べて低く皮下脂肪が厚いことが飼養管理面での課題と思われる、今後とも更に飼養管理技術の一層の向上と改善に努めていただきたいと思います。

次に、2区の交雑種去勢牛10頭の結果ですが、出品月齢は25.2～29.5ヶ月齢で平均27.7ヶ月と、昨年とほぼ同様でありました。

屠殺前体重は平均825Kg、枝肉重量は527.9Kgで体重、枝肉重量ともに前回に比べて大きくなっていました。

格付け状況ですが、歩留等級につきましてはB等級8頭、C等級2頭となっております。肉質等級では、4等級3頭、3等級5頭、2等級2頭でした。

前年に比べ3等級以上の率は変わらず、枝肉重量及びBMS Noは向上しておりますので、今後とも引き続き一層の飼養管理技術の向上に努めていただきたいと思います。

2 乳用牛の部（平成19年10月17日）

今回の出品は、第1部育成牛（15ヶ月齢未満）14頭、第2部育成牛（15ヶ月齢以上）12頭、第3部初妊牛17頭、第4部経産牛（3歳未満）10頭、第5部経産牛（3歳以上）12頭の合計65頭の出品でした。今回は、前回まで1部で行っていた育成を授精時期の15ヶ月齢で1部と2部に分け、出品牛の条件を、できるかぎり揃えましたので、かなり厳密な審査ができました。

なおホルスタイン種雌牛審査標準については、平成6年4月1日に改正された後、平成19年に13年ぶりに改正されました。今回の主要な改正点は、尻の角度、幅、長さを考慮して機能性を重視し、また肢蹄の標点を高く、強健性、耐用性を重視している点です。今回も、この改正されたホルスタイン種雌牛審査標準に基づいて、審査を行いました。

第1部につきましては、12ヶ月令～15ヶ月令未満の出品であり、総体的に発育よく強健性に富み体全体の輪郭が鮮明で鋭角性に優れ、また後躯の体積があり、特に腰角幅・座骨幅が広く、将来性を伺わせる出品牛が多く見られました。ただ後肢の弱い出品牛も数点、見受けられました。

第2部につきましては、15ヶ月令～18ヶ月令未満の出品であり、鋭角性に優れ乳用牛としての特質に富み、発育良好で品位・資質の優れたものも多く見られました。特に、前駆の頸・き甲・肋への移行がなめらかで、バランスのとれたものが多く、レベルの高さが感じられました。

第3部につきましては、すでに種付を終了した初任牛の出品であり、全体としてフレ-ムが強く、特に前駆、胸、後躯の強さ、肢蹄の踏みの鮮明さ、強健性に優れたものも多く見られました。しかしながら尻の角度をみたときに座骨がやや高めのものがあり、将来的な機能性を考えたときに残念と思われるものも見受けられました。

経産牛であります、3歳未満の第4部と3歳以上の第5部に分けられ、第4部は初産牛ですが、第5部は初産から6産までの産歴幅のある出品であったこと、また、分娩後の日数の具合で有利不利なことはあったと思われませんが、この点については十分に考慮した上で審査を行っています。

第4部は全ての出品牛について乳房の形状がよく、また初産らしい輪郭をあらわしています。乳用牛としての特質・資質・品位に富むものも多く見られ、特に資質に富んだ肋の幅・長さ・移行に優れ、前駆・中躯の充実がよく、また後乳房の幅・乳房の付着の高さが十分で乳房底面の高い優れた乳房が多く見られました。

第5部は総体的に、フレ-ムが大きくてしっかりしていて体全体の充実度がよく、また乳房、特に後乳静脈がよく発達していて、強く優れた乳房で、よく働いている出品牛が多く見られ、特にグランドチャンピオン牛はまさにそのとおりでした。

全ての区で出品牛にパウ-がみられ、本県の層の厚さ・レベルの高さが伺えたことから、生産者の方々の優れた改良技術に敬意を表します。

同時に今後の飼養管理にも万全を期し、さらに牛群の改良を推し進めて頂くことを期待するとともに、牛乳の消費拡大、酪農経営の安定を祈念致します。

3 肉用牛の部（平成19年10月20日）

今回の出品は、若雌区（1区～5区）は9ヶ月から20ヶ月齢までの56頭、母系牛群（6区）は14ヶ月齢以上の3セット9頭の合計65頭でありました。

若雌区（1区～5区）の出品牛は、各区とも全体的に発育、体積に富み、均称や前軀、中軀（体の伸び）のよいものが多く、また、惜しまれる点として、被毛の質や皮膚のゆとり、やや肢蹄の弱いものも散見されました。

今回、若雌3区で農林水産大臣賞を獲得した豊後大野市・安藤さんが出品の「つるしげ」（父は「第2平茂勝」）は体の強さ（体上線、体下線）、発育、体積、資質、品位が特に優れていました。また、九州農政局長賞を獲得した若雌4区「ふくふじ」（父は「寿恵福」）、竹田市・志賀さんの出品牛についても、発育、体積、均称が優れ、特に前中軀の移行の良さに加え幅と深みに富み、各部位の測尺値は県の改良目標値（基本・本原登録時）を超えていました。

母系牛群（6区）は、高等登録牛の母牛と娘牛、孫娘を1セットとして競う区で、母・娘・孫娘に亘る改良の成果を競うものです。今回の出品牛は、いずれのセットも大分県の特徴である発育・体積に優れるもので、今後は今回の出品を契機に各地域での産子の保留推進をお願いします。

また、この区は第9回全国和牛能力共進会の母系牛群と同様の出品区であり、今回の全共において大分県代表はこの区で首席を獲得し、全国的に高い評価を受けております。

発育（体高）については、過大な発育は避ける意味から若雌（23ヶ月齢以内）については、2、また成牛（24ヶ月齢以上）は1.5を基準としていますが、全国和牛登録協会が黒毛和種正常発育曲線を、改訂してこれまでの数値よりやや高めに設定されておりますが、若雌区で2を超えた牛が56頭中で17頭、30.4%に見られました。

栄養度については、概ね良好で年々改善されてはいますが、まだまだ、出品牛の中で栄養度の進んだものが見られました。全国和牛登録協会の調査によると分娩前の栄養度6程度のものが、分娩後の初回発情、受胎成績も良好となっていますので、肉用牛の生産性の向上と経営面からも栄養度の管理にご留意頂きたいと思っております。

また、若雌区を父牛別に見ると、「勝忠平」10頭、「藤平茂」8頭、「平茂勝」8頭、「隆茂38」7頭、その他は23頭で、合計14頭の種雄牛がありました。出品条件に抵触しないものの若雌区の中で県外産種雄牛の産子が約55.4%（31頭）認められたことは今後の課題と思われれます。

今回の共進会を通じて、豊後牛の銘柄確立を図る上で県有種雄牛産子の出品が強く望まれ、当県産系統雌牛の維持の重要性と保留促進に向けた取組みが必要と思われれます。

今回は、わずかの差で惜しくも上位入賞を逃した出品牛も体型及び血統的に見ても改良の基礎牛として期待されるものばかりであり、今後の飼養管理に万全を期して、優良産子の生産と保留に取り組んで頂くとともに、豊後牛の銘柄確立にご尽力賜りますようお願いいたします。

平成19年10月

審査委員長

今吉 豊一郎